

1985. 8. 帰国中

らい (leprosy)

らいは、らい菌 (Mycobacterium leprae) という結核菌に類似した細菌による慢性の感染症である。発見者の名をとってハンセン病とも呼ばれる。

主に、末梢神経と皮膚がおかされる。主な初期症状は、皮膚の感覚障害と皮疹であるが、病型によって多少異なる。極めてゆっくりした進行で、症状がひどくつづくと、手や足の運動麻痺、顔面手足の皮膚の変形、眼の障害等がおこってくる。手足の感覚が失われるために、痛みを感じず、しばしば火傷、外傷がおこる。感染を併発して、この手足の変形、機能障害の原因となることも多い。

やっかいな合併症として ① 足底潰瘍 (うらまじ) ② らい反応がある。足底潰瘍は、無理な圧力や摩擦による足の痛みを避けるために、足のうらに潰瘍 (皮膚組織の一部が壊れて、いわば傷かたまりの状態) を生ずるものである。そこから感染をおこし、骨がおかされ、足の変形、

脱落の一因ともなる。らい反応は、治療中に突然、全身の炎症反応がおこり、発熱を併せて皮膚や神経に障害を生ずるもので、らい性結節性紅斑 (ENL 反応) と反転反応と二種ある。二つに後者は、急激な運動麻痺をしばしばおこし、その後の患者の社会生活に大きな影響を与える。

感染は、幼年期に家族内感染するものが多く、皮膚から皮膚への感染が主であるといわれているが、鼻汁等による〈飛沫感染〉等の説もある。潜伏期はきわめて長く、数年から数十年に及ぶ。

1985. 8. 14 国中

らい (leprosy)

らいは、らい菌 (Mycobacterium leprae) という結核菌に類似した細菌による慢性の感染症である。発見者の名をとってハンセン病とも呼ばれる。

主に、末梢神経と皮膚がおかされる。主な初期症状は、皮膚の感覚障害と皮膚疹であるが、病型によって多少異なる。極めてゆっくりした進行で、症状がひどくつづくと、手や足の運動麻痺、顔面手足の皮膚の変形、眼の障害等がおこってくる。手足の感覚が失われるために、痛みを感じず、しばしば火傷や外傷がくりかえされ、感染を併発して、これら手足の変形、機能障害の原因となることも多い。

やっかいな合併症として ① 足底潰瘍 (うらきず) ② らい反応がある。足底潰瘍は、無理な圧力に足にかかる痛みを避けるために、足のうらに潰瘍 (皮膚組織の一部が壊れて、いわば傷かたまりの状態) を生ずるものである。そこから感染をくりかえし、骨がおかされ、足の変形、

脱落の一因ともなる。らい反応は、治療中に突然、全身の炎症反応がおこり、発熱を併せて皮膚や神経に障害を生ずるもので、らい性結節性紅斑 (ENL 反応) と反転反応と二種ある。これに後者は、急激な運動麻痺をしばしばおこし、その後の患者の社会生活に大きな影響を与える。

感染は、幼児期に家族内感染するものが多い。皮膚から皮膚への感染が主であるといわれているが、鼻汁等による〈飛沫感染〉等の説もある。潜伏期はさまざま長く、数年から数10年と及ぶ。

治療： 1947年にサリドマイドの一種DDSが導入され、その次々と有効な薬剤が開発された。これにより、症状の進行を止めさせ、感染性を失くすことが可能となった。現在の主要薬剤は、リファンピリン、B663（ランゾレド）、DDS等である。リファンピリンが最も有効であるが、発展途上国では高価なため使用されていないことも多い。

以上の様に、医学的にみれば、これは治療可能な感染症の一つであるが、人々に余り知られていないことから、様々な偏見に基づく社会的問題がつきまとう。日本にも現在約1万人の患者が居り、沖縄では今でも年間数名の患者が新しく出る。

WHOの推定では世界中に約1200万人と見積もられているが、実際はそれを上回るという見方もある。治療法の進歩によって、かつての隔離政策から外来中心の治療に変わってきたが、発展途上国では定期的に、継続的に服薬させることがしばしば困難で、物資や資金の欠乏と重なり、この対策は今なお難行しているのが実情である。特に、いかにして患者の、良い社会生活を保障するのかが大きな問題で、金や薬を与えれば済む問題ではない。これはたまたまの医療スタッフは、医療上のことにだけ任せておく、様々な社会的問題と直面に葛藤苦闘しているのが世界中に共通する事実である。